

第2章 郡山城跡周辺の環境

第1節 自然的環境

(1) 位置

史跡郡山城跡が所在する大和郡山市は、奈良県の北部、奈良盆地の北西部に位置する、東西約9 km、南北約7 km、面積が約42.68km²の都市である。北は奈良市、東は天理市、西は生駒市と斑鳩町、南は安堵町と川西町に接している。

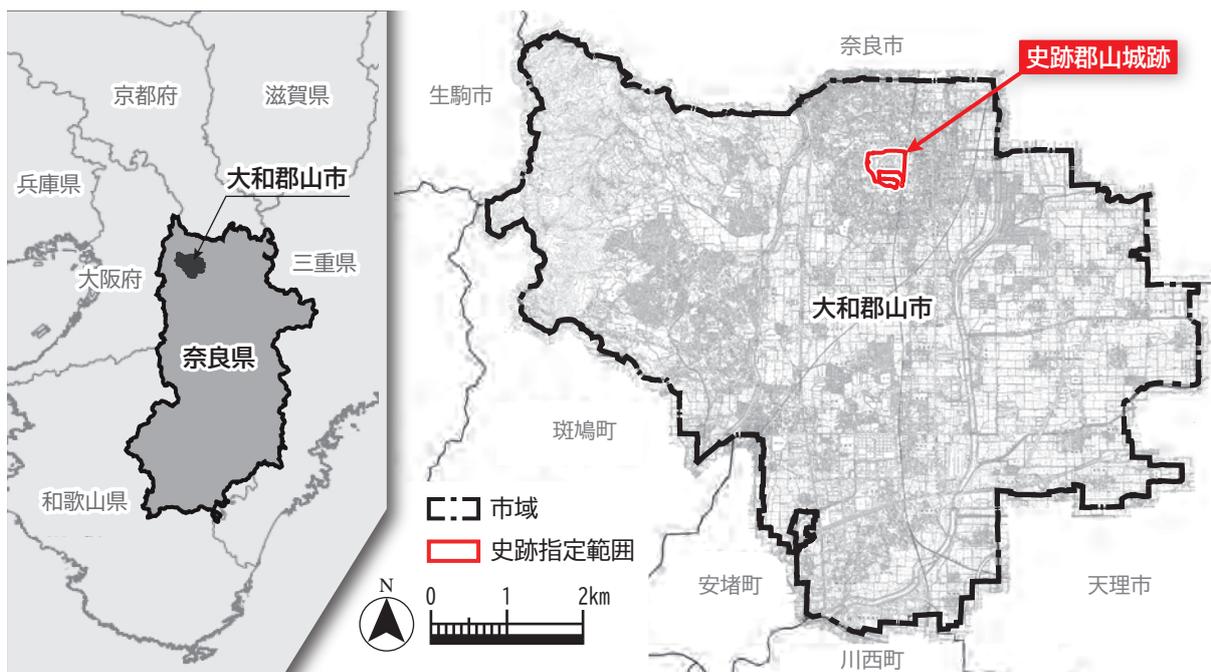


図 2-1 大和郡山市の位置 (県域 S=1/2,500,000・市域 S=1/100,000)
※地理院地図(国土地理院)をもとに作成

(2) 地勢

大和郡山市は、市域の西部が奈良盆地を限る丘陵地である矢田丘陵とその東麓に位置し、その他の大部分は平野である。平野部は標高40～57mで、市域の南に向かって緩やかに標高を減じている。市域の中心を大和川水系の佐保川と富雄川が南流する。両河川ともに市の南縁辺部で奈良盆地南部からの水を集めた大和川と合流して、大阪方面へと流れている。

矢田丘陵は、本市の西縁を限る標高約300mの南北方向の丘陵である。市南西部の松尾山を境に南方に向かって標高が急激に下がり、斑鳩町法隆寺や龍田付近で平野部に至る。丘陵の東縁部には砂礫台地や谷底低地が派出し、起伏に富む入り組んだ地形を形成している。

矢田丘陵の東には、並列して南北方向にのびる西ノ京丘陵がある。大阪層群からなる標高100m前後の小高い丘陵地で、市域の中心付近で標高を減じて平野部に至る。

佐保川は市域を南北に貫流する河川である。春日山東方山地を発して市域に至り、本市域内でも東山中を発した大小の河川が流れこみ、市の南端部で流れを西に変えて大和川に合流する。両岸には氾濫原がひろがり、市域の大部分は本河川による緩傾斜扇状地上に位置している。

富雄川は矢田丘陵の東辺に沿って南流する河川である。市の北方にある生駒山地より発し、両岸には氾濫原がひろがる。かつては市の中心付近を東流して佐保川に達する流れもあったとみられるが、現在はほぼ直線的に南流して大和川に合流する。

市域の南端部に位置する標高50m前後の平端台地は、低平な台地ながらも市域南部の比較的平坦な地形の中で注意深い地形の変化を与えている。

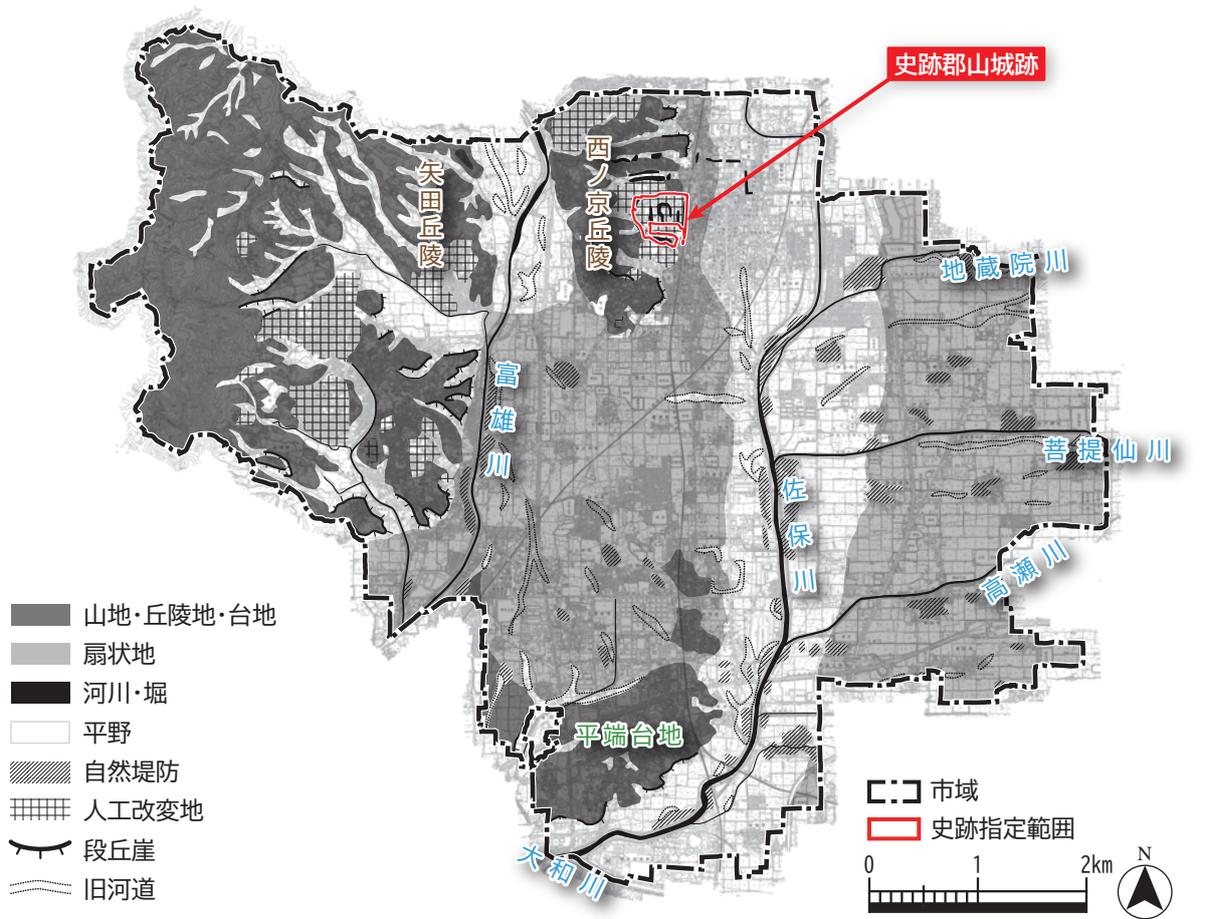


図 2-2 大和郡山市の地勢 -1

(S=1/70,000)

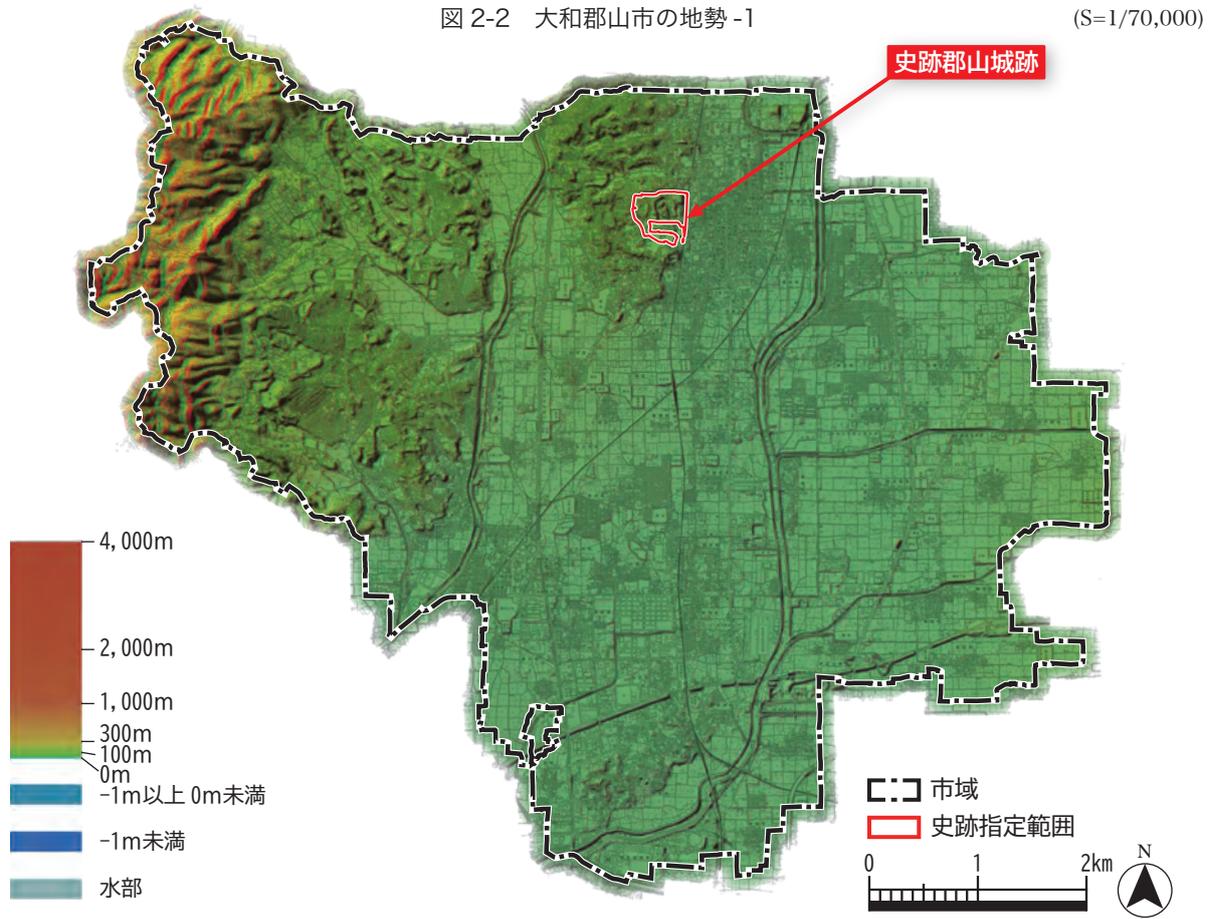


図 2-3 大和郡山市の地勢 -2

(S=1/70,000)

※標高図(国土地理院)をもとに作成

(3) 気候

大和郡山市は奈良盆地の北部に位置し、内陸性気候の特徴を有している。一般的には温和だが、四季の変化がよく現れ、夏は暑く冬は寒く、日中と夜間の寒暖差も大きい特徴がある。

年間の平均気温は16.61度で、1月が最も寒く、8月が最も暑い。同じ奈良盆地内に位置する奈良や橿原と比較すると、年間を通じてやや高温の傾向がある。市域西部の矢田丘陵は、地形の影響から気温がやや低く、夏は避暑地としても適している。月別の降水量をみると、梅雨の影響がある6月頃と台風の影響がある8月頃が多い二峰性の傾向がある。年間降水量は全国平均と比較するとやや少ない。しかし、市の平野部には大小多数の河川が流れており、中には天井川となっているものもあって、豪雨による洪水の危機が生じる可能性は比較的高い。矢田丘陵は、降水量が平野部よりやや多い傾向がある。

過去に郡山城やその一帯に影響を与えた自然災害には、台風等に伴う豪雨・強風や地震があり、江戸時代後半以降は記録がよく残っている。豪雨・強風では、享保10年、天明元・6・7年、寛政3年に家屋の倒壊や土砂崩れ等が発生し、大きな被害があったことが伝わっている。城下で大きな被害をもたらした地震には、文禄5年（伏見・慶長の大地震）、宝永4年（宝永の大地震）、安政年間の伊賀上野地震と南海地震（安政の大地震）がある。明確な記録は残っていないが、天正13年に中部から近畿東部を襲った大地震（天正地震）によっても大きな被害があった可能性が高い。

大雨に伴う洪水の被害も頻発し、近世を通じて市域平野部の各所で治水対策を講じてきた。近代以降も、明治18・36年、昭和5・43・57年、平成7・11年に佐保川や富雄川をはじめとする大小の河川が度々溢れ、浸水等による大規模な被害が発生している。しかし、近年は治水整備が進んだこともあり、浸水被害が減少している。

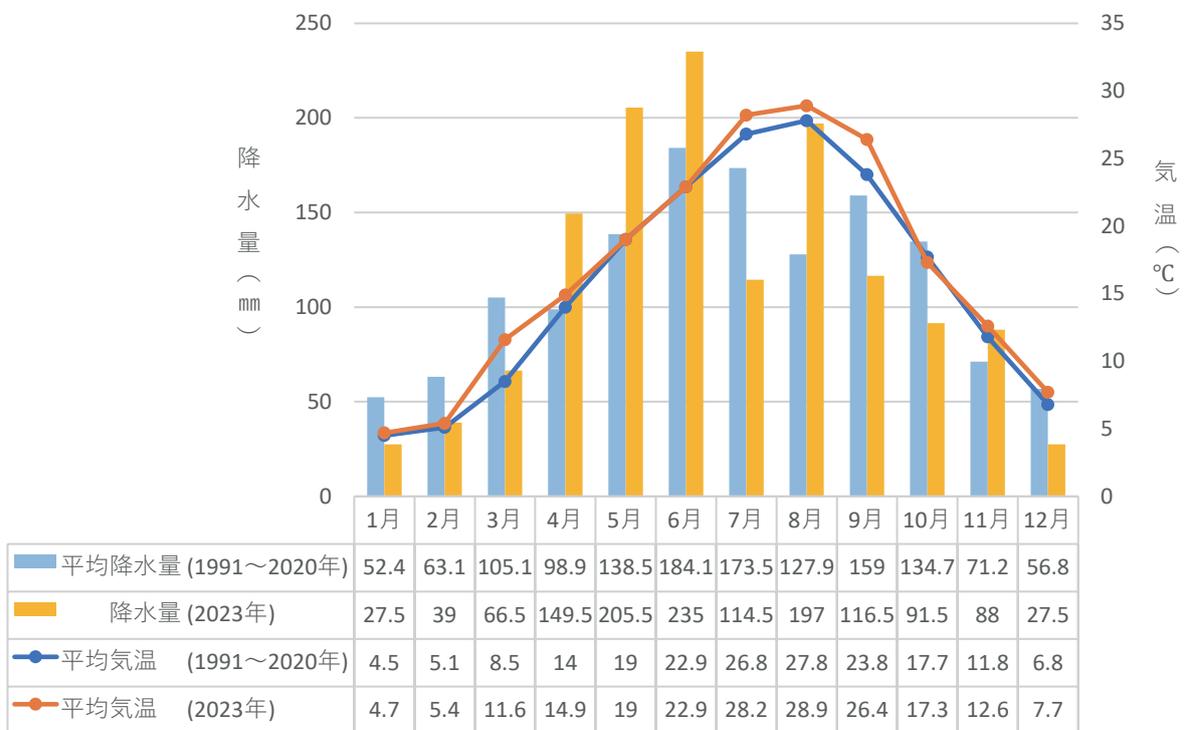


図 2-4 大和郡山市の月別の気温と降水量

※気象庁（観測地点 - 奈良）をもとに作成

(4) 植生

大和郡山市の植生環境をみると、樹林地が488.1haあり、市域西部の矢田丘陵に集中している。このうちの約71%を落葉広葉樹等の自然林が占め、スギ等の植林地や竹林は多くない。平野部の市街化調整区域は、大部分が水田雑草群落である。

郡山城跡が位置する西ノ京丘陵一帯は、植生分布図でみると大部分が市街地に属している。しかし、史跡指定地は広い緑地であり、残存・植栽樹群をもった公園に区分されている。史跡指定地の付近が市の中心市街地の一画となって多くの公共建築等が整備されてきた中、指定地内の大部分が都市公園として緑化整備されてきたことによる。

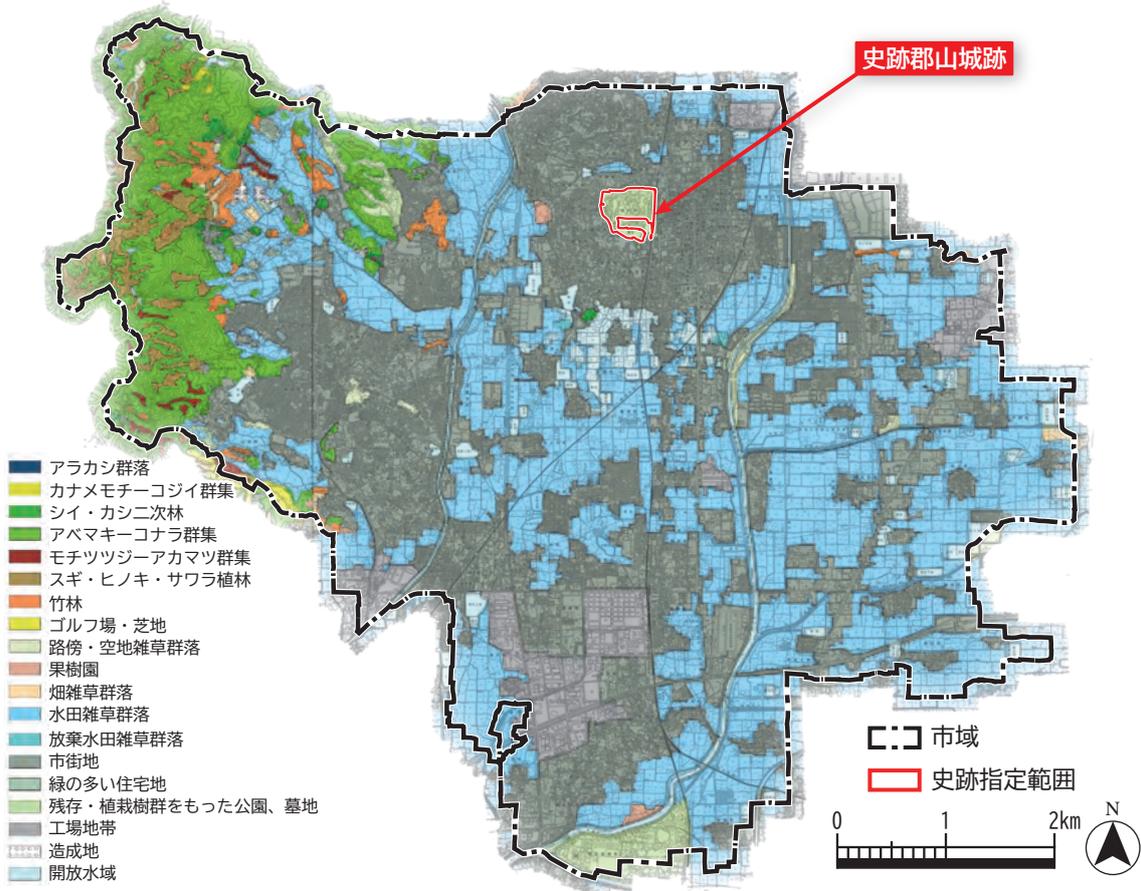


図 2-5 大和郡山市の植生 (S=1/70,000)

※植生図(「第6回・7回自然環境保全基礎調査植生調査報告書」(環境省自然環境局生物多様性センター))をもとに作成

(5) 動物

市内の動物を対象とした詳細な調査は限られるが、西部の山林や平野部の農地や緑地、河川や溜池といった水辺環境の各所で、多様な動物の生息を把握している。

『奈良県版レッドデータブック』は、市西部の丘陵地一帯を「矢田丘陵周辺の里山と田園地帯」として、生物多様性が非常に高いホットスポットに指定している。奈良県の希少動物種7500強のうち、100種が大和郡山市を生息域としており、その6割を鳥類が占めている。市西部の農耕地に囲まれた森林は、鳥類にとって重要な生息地であり、春と秋の渡りの時期には珍しい鳥類も多く観測できる。

市街地内の緑地空間である史跡指定地内にも、多様な動物が生息している。中高木が茂る範囲は、野鳥の住処となり、堀跡には鯉や亀といった多くの生物が生息している。しかし、近年はイタチやアライグマ等の害獣が発見されることも多く、周囲一帯の環境変化とともに生息する動物種も変化しつつある。

第2節 歴史的環境

(1) 周辺の遺跡

大和郡山市には、縄文時代から近世の遺跡が多数分布している。周知の埋蔵文化財包蔵地は218を数える。以下、郡山城跡が位置する西ノ京丘陵の南端部とその周辺に分布する遺跡を通して、郡山城築城以前の歴史的環境の変遷を概観する。

①縄文・弥生時代

縄文時代は資料が少ない。古屋敷遺跡で後期から晩期の土器が出土しているが、集落の実態は不明である。

弥生時代は遺跡数が増加し、特に中期以降が多い。

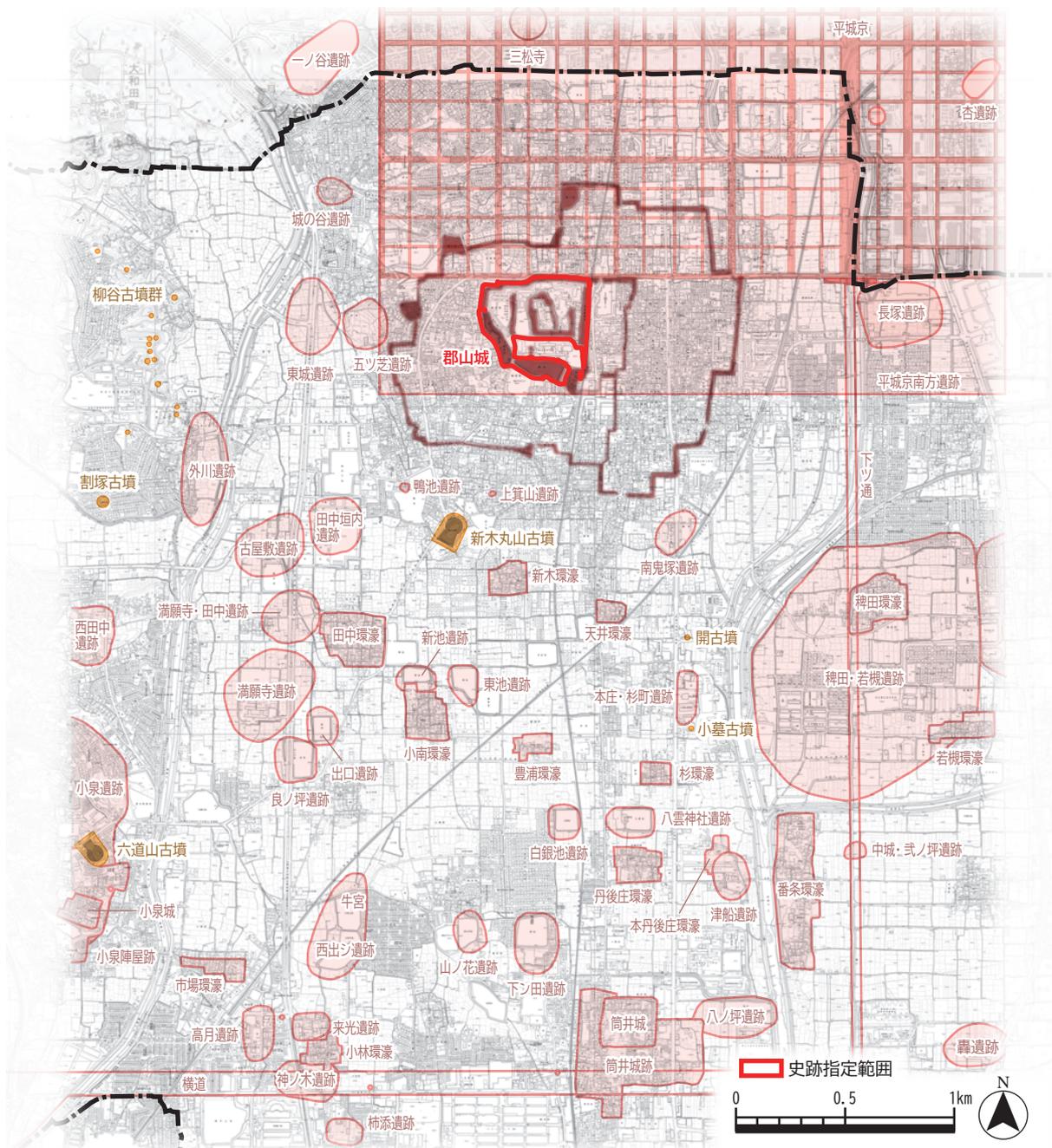


図 2-6 史跡周辺の主な遺跡

(S=1/30,000)

集落遺跡は、佐保川流域の稗田・若槻遺跡、富雄川流域の満願寺遺跡、城の台遺跡、外川遺跡がある。弥生時代末頃には、田中垣内遺跡のような濠を伴う大規模な集落が出現する。矢田丘陵東縁部では、中・後期に小高い尾根上に小規模集落が断続的に営まれ、西田中遺跡や小泉遺跡で住居跡が発見されている。西ノ京丘陵も同様で、郡山城跡の下層で住居跡がみつまっている。

墓域は、八条北遺跡や稗田・若槻遺跡の方形周溝墓群がある。



郡山城下層の弥生時代住居跡

②古墳時代

集落遺跡が市域の各所に分布している。前期は、田中垣内遺跡や、佐保川流域の本庄・杉町遺跡、筒井城下層がある。中期は、富雄川流域の玉生産に関わる東城遺跡や丘陵上の西田中遺跡がある。後期は、佐保川流域に平城京下層の遺跡群や稗田・若槻遺跡、長塚遺跡など多くの集落遺跡が分布している。

丘陵地には古墳が多く築造された。矢田丘陵一帯では、前期に小泉大塚古墳が築造されると、六道山古墳や笹尾古墳、小泉狐塚古墳、小泉東狐塚古墳、慈光院裏山古墳群など、後期を盛期に断続的に古墳が築かれた。割塚古墳では朝鮮半島由来の垂飾付耳飾り等の特徴的な副葬品が出土している。西ノ京丘陵では、市域最大規模の前方後円墳である新木山古墳が築造される。近年の発掘調査により、丘陵の周縁に開古墳のように小規模な古墳が多く築造されたことがわかってきた。佐保川流域の長塚遺跡や富雄川流域の来光遺跡でも、発掘調査で同様の小規模古墳を発見している。



割塚古墳

③飛鳥・奈良時代

7世紀以降は、律令国家の成立・発展に伴い、周辺で開発が進んだ。

下ツ道は奈良盆地を南北に通る総延長約25kmの直線的な道路で、本市域のほぼ中心を通る。中ツ道や上ツ道と一連で設計された古代官道網のひとつで、壬申の乱の頃には整備されていた。後に、北部は平城京の朱雀大路に踏襲され、一部は郡境となり、近世以降は中街道として利用された。現在も一部が道として機能し、地割にも痕跡がよく残っている。稗田・若槻遺跡では、幅が約25mある道路や運河機能を兼ねた道路側溝、橋脚がみつまっている。

北横大路は下ツ道と同じく古代に整備された道路で、地割に痕跡が残るが、設置年代や構造は分かっていない。道路推定地の周辺には、高月遺跡や来光遺跡、神ノ木遺跡といった7世紀代の遺跡が分布し、官道と関連して整備された施設に関わる遺跡とみられている。

西田中遺跡では、694年に遷都した藤原京の宮殿に用いる瓦の造瓦施設が造営された。発掘調査により、近接する西田中・内山瓦窯と連動して機能した大型掘立柱建物群を確認している。

710年、都が平城京に遷る。史跡指定地の付近は、平城京の南西隅付近に当たる。平城宮からは離れるが、基幹水路である西堀河を中心に、西市や金属等の生産施設といった重要施設が設置

された。京城門である羅城門も近い。門の位置は現在、佐保川の河床にある。南京極である九条大路の南方にも、平城京と一連の規格で条坊が施工されたが、多くが奈良時代中頃に廃棄され、耕地化が進んだ。この付近には、薬園宮の存在も想定されている。



平城京の羅城

④平安時代から郡山城築城前

都が長岡に遷都すると、京一帯は広範囲が耕地化した。平安時代には、稗田・若槻遺跡や轟遺跡の集落遺跡があるが、資料は少ない。郡山城下層や筒井城下層、平城京南方遺跡など、平野部の各所で12～13世紀の遺物が出土し、小規模な集落が点在したとみられる。中世以降は、平野部で農村化が進み、濠で圍繞する集落が営まれる。稗田環濠や若槻環濠、番条環濠は代表的な環濠集落であり、今日もその姿を留めている。今日に継続する環濠集落以外にも、古屋敷遺跡や田中垣内遺跡のように濠で圍繞する集落や屋敷地が発掘でみつまっている。

また、西ノ京丘陵東方の低地では、広範囲で粘土の採掘がおこなわれた。焼物の原材料として採土されたとみられ、九条町付近から郡山城下層までの広範囲で痕跡を確認できる。



稗田環濠

(2) 郡山城築城期の情勢と周辺の寺社・城郭

郡山城の築城期の歴史的環境について、周辺における寺院や城郭の状況の概観を通じて述べる。

①興福寺の大和国支配と在地勢力

東大寺や興福寺、春日大社等の有力な寺社は、長岡遷都後も南都として繁栄を続けた。特に興福寺は門跡寺院として影響力を強め、荘園の拡大を通じて大和国を実質的に支配した。源平の戦による南都焼亡の際も摂関家の支持で復興し、大和国の守護代として一層の支配力を持った。南北朝の乱後は守護相当の地位が認められ、名実ともに大和国を支配した。

在地の名主層は、衆徒や国民として興福寺の支配構造に組み込まれていった。在地の勢力は、14世紀代には南北朝の乱や一乗院と大乘院の対立に伴い離合集散を繰り返したが、15世紀中頃には勢力図がまとまり、北部の筒井氏、北部東山の古市氏、中部西域の箸尾氏、中部の十市氏、南部の越智氏が主要な氏族となった。国内の争いは15世紀代も続き、居館は平城に進化し、詰城としての山城が成立発展した。室町幕府が弱体化し覇権争いが激化する中で、筒井氏が台頭する。16世紀前半に赤沢朝経が大和に侵攻すると、筒井、越智、古市が主体となって離合集散を繰り返した。永禄2(1559)年に松永久秀が大和に侵攻すると、筒井氏は大和国の勢力の大部分を傘下にし、久秀と抗争を繰り返した。この争いを制した筒井順慶は、織田信長の命により大和国の支配拠点として郡山城を築き、他の国内の城を破却した。この頃順慶の後ろ盾は信長であったが、興福寺も門跡寺院として大和国における強い影響力は失っていない。

②郡山城築城期の周辺の城郭

大和国では、14世紀以降の争乱によって多数の城郭が築かれた。特に、筒井順慶と松永久秀が争った16世紀後半頃は、城郭史上注目すべきものが多い。久秀は、奈良盆地北西山間部に信貴山城を築いて大和支配を進め、永禄3（1560）年に盆地北端の山上に多聞城を築城した。多聞城の豪華な瓦葺きの多層建物は、近世城郭で普遍する瓦葺城郭建築の先駆である。順慶は盆地平野部の微高地に築いた筒井城を拠点とし、東山間部の椿尾上城等の山城を詰城とした。奈良盆地の東縁部には、古市氏が築いた城郭が点在している。古市城は盆地東縁の台地上に築かれた、古市氏の拠点である。鬼藺山城は、興福寺大乘院の境内に築かれた山城で、15世紀代の筒井・越智・古市の攻防の舞台となった。矢田丘陵東縁には小泉氏が小泉城を築いた。郡山城に伴い破却されたが、元和9（1623）年に小泉藩の拠点として片桐氏により再整備されている。

郡山城は、大和国内の既存の平城や山城を廃し、国の統治拠点として新たに築かれた平山城であり、軍事的な拠点であるとともに政務の中枢を担う施設にも適応する城郭として築かれた。

③郡山城築城期の周辺の寺社

郡山城の周辺には古代以来法灯を継ぐ寺社が多く、大和国内の情勢にも影響力があった。

興福寺は、10～12世紀に一乗院や大乘院等の子院が創立し、門跡寺院として充実する。足利尊氏が大乘院と一乗院の門跡を守護に任じると、大和国での影響力は絶大となった。春日大社は、藤原氏の氏社としてはじまり、藤原氏の隆盛とともに大きな影響力をもった。東大寺は、源平の乱で焼かれると、寺勢が次第に衰えた。永禄10（1567）年の兵火の後、大仏殿もすぐに再建できず、江戸時代には大仏が露仏となっていた。薬師寺は天禄4（973）年の火災で大きな被害を受け、再興には長期を要した。14世紀以降も天災や放火で堂宇を失い、本格的な再興は慶長年間となった。唐招提寺は、13～14世紀に堂宇等の修造が続いたようだが詳細は明らかでない。慶長の大地震で被害があった際には、すぐに修造にかかっている。法隆寺は、太子信仰の高揚とともに東院を併合し、鎌倉時代以降は修造を繰り返した。慶長年間の修理が特に大規模である。大安寺は中世の衰退が最も顕著な寺院である。14世紀後葉に僧坊が焼けると境内は縮小し、15世紀には金堂と文殊堂以外の建物が存在していなかった。天正と慶長の大地震で堂舎がほぼ壊滅すると、廃寺のような状態に化したという。正暦寺は、正暦3（992）年に一条天皇の勅命で建立されたと伝わる。藤原氏の氏寺的な性格が強く、興福寺の別院として栄えた。源平の乱で難を受けても直ちに再興し、13世紀には大乘院の末寺として隆盛した。16世紀に大乘院や興福寺衆徒との対立により再三災禍に逢うが、すぐに復興している。



天守台から南都方面を望む

(3) 近代以降の郡山

① 廃藩から大和郡山市へ

慶応3(1867)年に大政奉還がなされると、戊辰戦争を経て、慶応4年に明治新政府が発足した。明治2(1869)年の版籍奉還、同4年の廃藩置県を経て、幕府領と15藩および旗本・寺社領があった大和国は、奈良県に統合された。明治9年に奈良県は堺県に併合され、堺県もまた同14年に大阪府に併合された。しかし、併合によりインフラ整備の鈍化等の不利益が生じると奈良県の再設置運動が起こり、明治20年には奈良県が再設置された。

本市域では、廃藩置県により郡山藩と小泉藩がそれぞれ県となり、幕府領や旗本・寺社領は奈良県となるが、同年中に全てが奈良県に編入された。その後の大区・小区制、奈良郡下の連合町村への編成を経て、明治22年に郡山藩の城下町を中心に郡山町が誕生した。同年には筒井村、矢田村、本多村と平端村(昭和10年に昭和村に合併)、平和村、治道村も誕生した。片桐村は小泉藩を基盤として明治22年に成立し、昭和25年に片桐町となっている。郡山町は昭和16年に筒井村、同28年に矢田、昭和、平和、治道の各村を編入し、昭和29年に市制を施行して大和郡山市となる。昭和32年に片桐町を編入して、現在の大和郡山市となった。

② 郡山の近代化

明治維新の後、郡山では職業選択の自由を背景に企業が台頭し、商工業や金融業が発展した。明治11年に第六十八国立銀行が発足し、近代を通じて業務を拡大した。明治26年に設立した郡山紡績株式会社は郡山の産業の中心となり、大日本紡績株式会社(現ユニチカ)に併合されながら、昭和39年まで郡山で操業を続けた。金魚の生産も拡大し、明治末頃には海外進出を図るほど成長を遂げ、昭和初期には全国一の生産高まで成長した。近代における郡山の産業や金融業の発展には、旧郡山藩士が密接に関わっている点が特徴的である。

明治26年、郡山城跡に奈良県尋常中学校が創設された。奈良や今井との誘致争いがあったが、旧郡山藩主柳澤保申の尽力により郡山での創設となった。明治39年に富国強兵・産業教育振興を目的に開設した生駒郡立農業学校を前身とする郡山農学校もまた、城跡内に設置された学校である。どちらの学校も、設立には旧郡山藩関係者の未来への思いが強く込められていた。

近代には鉄道網の整備が進み、2つの駅が郡山城跡の付近に設置された。一つは大阪鉄道(現・JR)が明治22年に設置した郡山駅、あと一つは大阪電気軌道(現・近畿日本鉄道)が大正10年に設置した大軌郡山駅(現・近鉄郡山駅)である。どちらも大阪や京都につながる交通の大動脈であり、近代以降の郡山の発展を支えて今日に至る。



大日本紡績工場



国鉄郡山駅での金魚積み込み(撮影:秦 峰一)

第3節 社会的環境

(1) 人口

大和郡山市の人口は、令和5年12月末日時点で83,255人（世帯数39,287戸）である。

過去の人口動態をみると、工業団地の整備や矢田丘陵の住宅開発を背景に増加した人口は平成7年の95,762人をピークに、平成13年に95,000人を下回ると、以後は減少傾向にある。『大和郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』によると、人口減少は今後もこれまで以上のペースで進むと見込まれる。令和27年の予測人口は63,000人で、ピーク時の65%となる。

人口比率における高齢者の割合は令和4年時点で33.22%であり、奈良県や全国の平均より高い。この割合は今後も緩やかに増加し、令和27年には40%に達する予測がある。生産年齢人口の割合は減少傾向で、令和22年以降は50%を下回る見込みである。一方、近年は高齢者以外の年代の転出超過が抑制されており、若い世代に居住地として選ばれ始めている傾向も認められる。

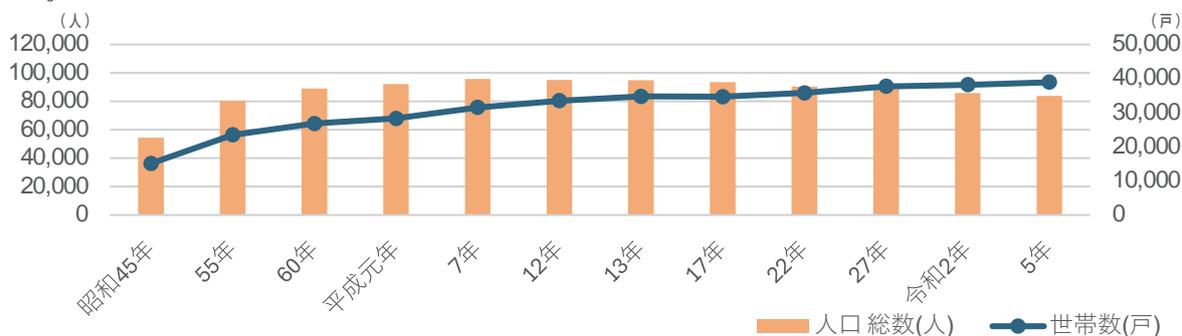


図 2-7 大和郡山市の人口・世帯数の推移

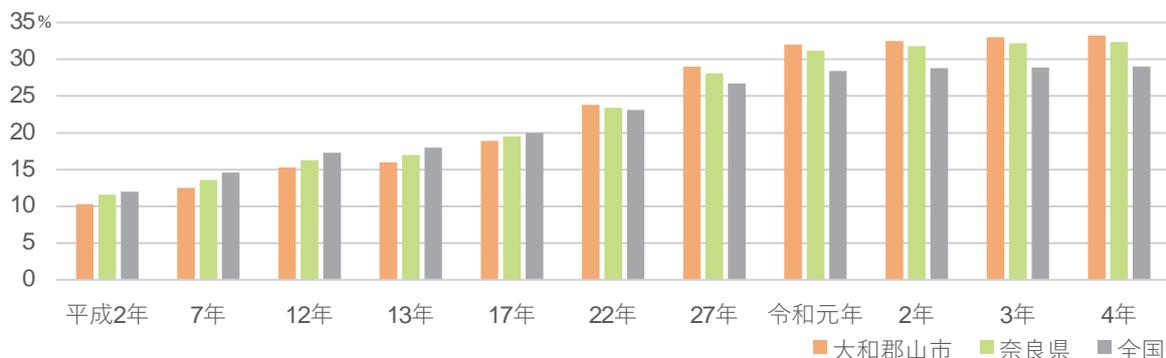


図 2-8 人口比率における高齢者割合の推移

(2) 交通

大和郡山市を貫く広域幹線道路には、京都と和歌山を南北に結ぶ国道24号と、三重と大阪を東西に結ぶ国道25号がある。大阪から天理を通じて三重につながる西名阪自動車道が市域南部を通り、奈良と大阪を結ぶ第二阪奈道路にも容易にアクセスできる。これらの幹線道路に、県道9号大和郡山斑鳩線、県道108号大和郡山広陵線、県道189号矢田寺線、県道249号大和郡山環状線などが接続して幹線道路体系を形成している。近年は、西名阪自動車道に、大和まほろばスマートインターチェンジや郡山下ツ道ジャンクションが整備され、利便性が向上している。

鉄道網は、大阪と京都を結ぶJR大和路線と、橿原と奈良を結び京都に通じる近鉄橿原線が、市域を南北に通っている。大和郡山市域には、JR大和路線の郡山駅と大和小泉駅、近鉄橿原線の九条駅、近鉄郡山駅、筒井駅、平端駅、ファミリー公園前駅の7駅がある。平端駅で近鉄天理線に接続し、天理方面に至る。郡山城跡はこのうち郡山駅と近鉄郡山駅から至近の位置にある。

市内のバス路線には、奈良交通バスと市営コミュニティバスがある。奈良交通バスは奈良法隆寺線、郡山小泉線、郡山イオンモール線が運行している。コミュニティバスは、元気城下町号、元気平和号、元気治道号の3つの路線が運行している。

大和郡山市へのアクセスは、自動車・電車ともに利便性が高く、大阪からは30～40分、京都からは40～60分、名古屋からでも自動車で2時間程度である。本計画地は鉄道駅に近く、JR、近鉄どちらも駅から徒歩でアクセスできる。自動車利用においても高速自動車道や幹線道路が充実しているため利便性が高い。しかし、史跡指定地付近は駐車場が限られ、さらに城郭地割がよく残るために道路が入り組んでいる上に道幅が狭いなど、課題もある。

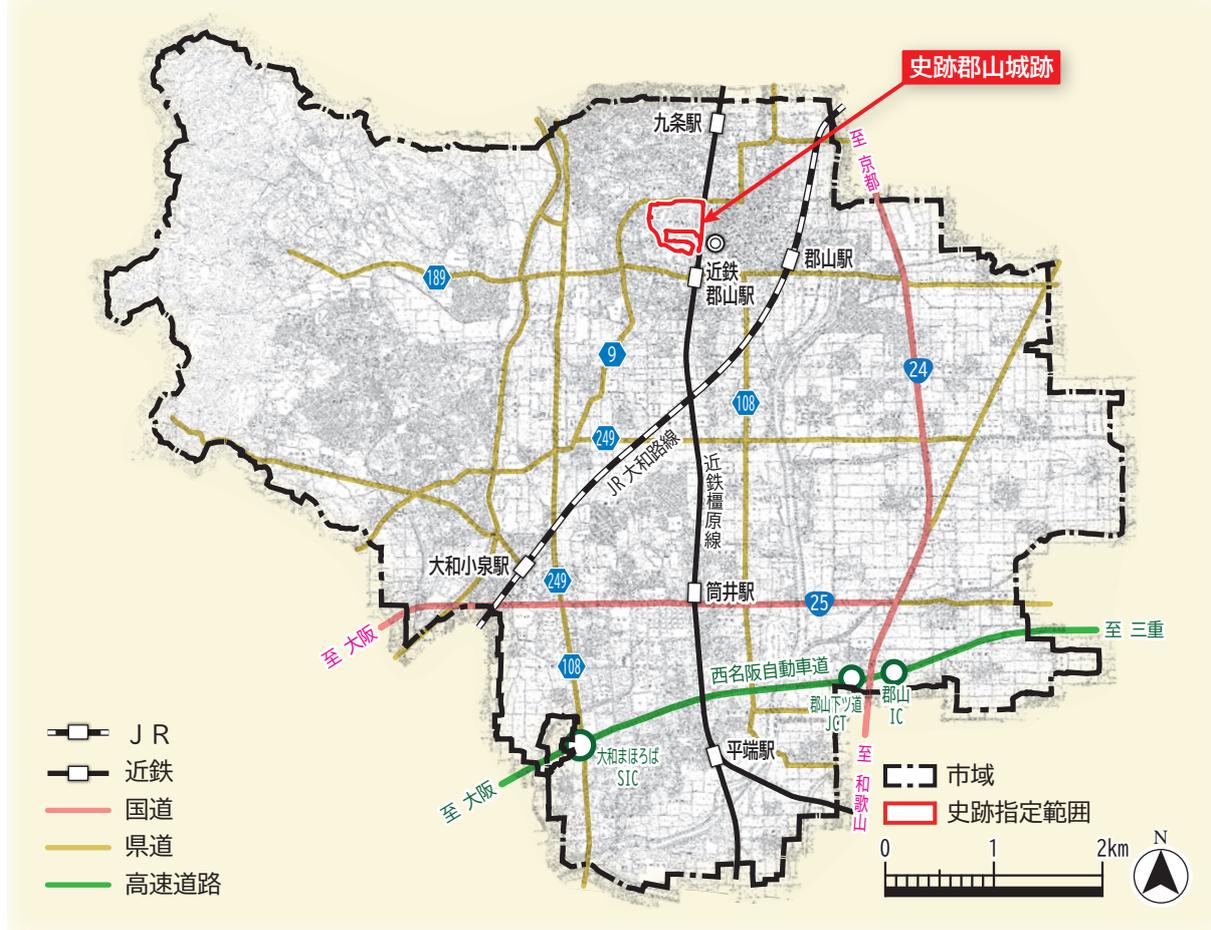


図 2-9 大和郡山市へのアクセス (広域：S=1/400,000・市域：S=1/70,000)

※一般社団法人大和郡山市
観光協会公式ウェブサイトを参考に作成

(3) 土地利用と産業

大和郡山市の土地利用は、平成 26 年度の都市計画基礎調査によると、農地や山林等の自然的土地利用が 2,268.5ha、住宅や商工業用地、道路等の都市的土地利用が 1,995.5ha である。自然的土地利用の割合がやや高く、そのうち 6 割近くの 1,330.5ha が農地である。

史跡指定地は大部分が公共施設用地となり、公園が公共空地、堀が山林または水面である。二ノ丸や五軒屋敷は公共施設用地が多い。総構え内は住宅用地が多い。鉄道駅の周辺には、商業用地や工業用地が集中する。計画対象地の道路用地は、多くが城郭の通路に由来する。田畑は、本計画地内は限定的で、総構えの縁辺部に広がっている。

令和 2 年の工業統計調査によると、市内には事業所が 129 あり、従業員数は 11,239 人、製造品出荷額は 4,591 億円である。その多くは市南部の昭和工業団地にある。同地は面積 108.4ha の奈良県最大の工業団地で、70 社を超える企業からなる。市内の事業所数は奈良市に次ぐ県内 2 位だが、従業員数は他を大きく引き離して県内 1 位である。製造出荷額も県内 1 位である。

平成 26 年の商業統計調査によると、市内には 692 の事業所があり、従業員数は 6,625 人、年間販売額は 2,217 億円である。売り場面積は 106,928㎡で、イオンモールやアピタ等の大規模商業施設が大きな比重を占めている。奈良県中央卸売市場は、食の流通の中核的施設である。

農林水産省の令和 4 年統計資料によると、土地面積に対する耕地面積率は 25.3%、耕地面積に対する水田面積率は 90.3% である。どちらも全国および奈良県の平均を上回る。農業産出額は推計 14 億円で、米が 6 億で野菜が 5 億を占める。内水面養殖業として養殖業従事者数が 113 人、養殖面積が 478,797㎡あるが、多くは金魚養殖である。市の統計によれば令和 4 年の金魚販売量は 43,625 千尾ある。販売量は減少傾向で、ピーク時の平成 10 年と比較して半数ほどに減っている。奈良県食肉センターは、食肉の安定供給や畜産振興に寄与している。

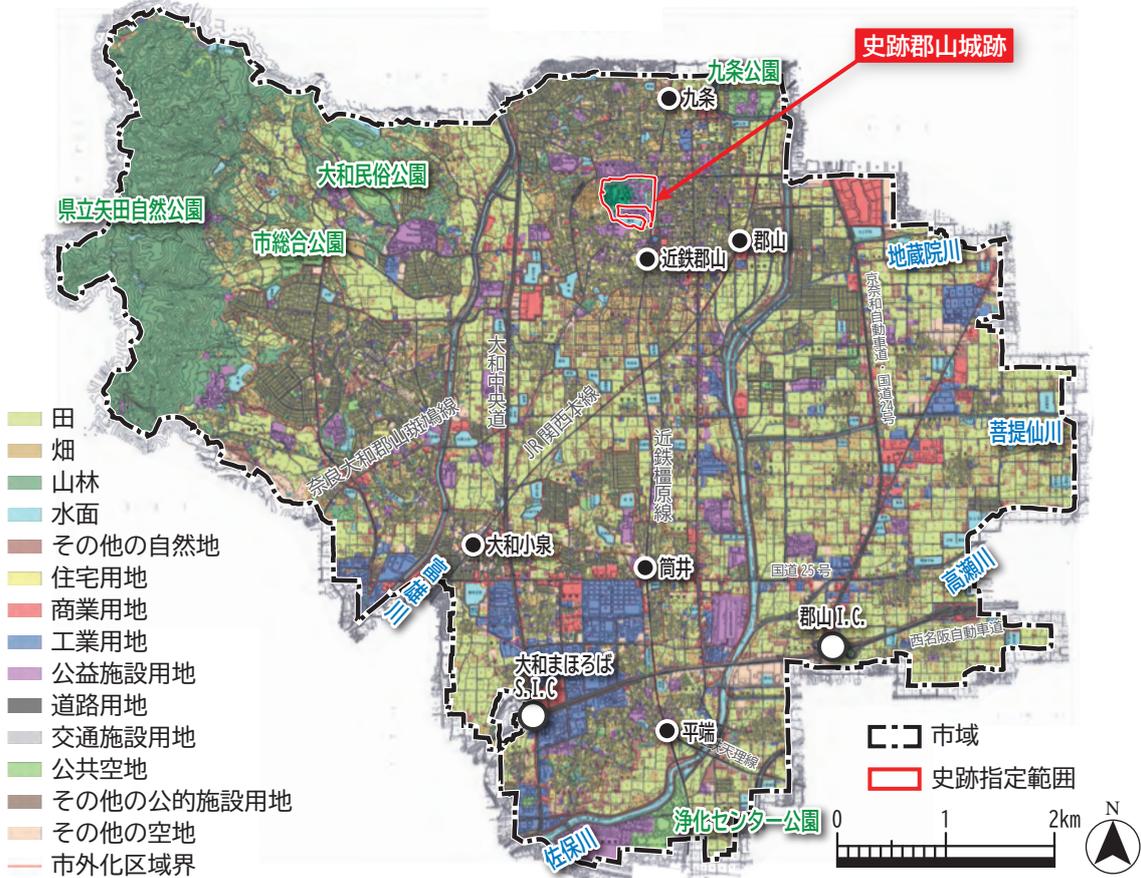


図 2-10 大和郡山市の土地利用現況 (S=1/70,000)
 ※土地利用現況図(『平成 26 年度都市計画基礎調査』より)をもとに作成

(4) 地域資源

①歴史資源（指定文化財）

大和郡山市には、令和6年3月時点で、国指定文化財が38件、奈良県指定文化財が35件、大和郡山市指定文化財が50件、国登録有形文化財が15件ある。いずれも市にとって貴重な歴史資源である。

国指定文化財の内訳は、有形文化財が建造物9件、絵画3件、彫刻20件、工芸品1件、史跡が3件、名勝が1件、有形民俗文化財が1件である。県指定文化財の内訳は、有形文化財が建造物15件、彫刻7件、工芸品4件、歴史資料2件、史跡が3件、有形民俗文化財が4件である。市指定文化財の内訳は、有形文化財が建造物3件、絵画12件、彫刻11件、工芸品3件、書籍・典籍10件、考古資料1件、歴史資料1件、石造物4件で、史跡が5件である。国登録有形文化財は全て建造物である。指定文化財の詳細は表2-1に示す。

<国指定>

表2-1 大和郡山市の指定文化財

区分	No.	名称	員数	所在地	所有者	時代区分	指定年月日
建造物	1	春日神社本殿	1棟	矢田町	(宗)春日神社	室町後期	大9.4.15
	2	小泉神社本殿	1棟	小泉町	(宗)小泉神社	室町後期	大9.4.15
	3	慈光院 (書院、茶室)	2棟	小泉町	(宗)慈光院	寛文 寛文4 (高林庵様伝記)	昭19.9.5
	4	旧白井家住宅 (旧所在 高市郡高取町)	2棟	矢田町 (大和民俗公園構内)	奈良県	元禄頃 江戸中期	昭49.5.21
	5	旧岩本家住宅 (旧所在 宇陀郡室生村)	1棟	矢田町 (大和民俗公園構内)	奈良県	嘉永頃	昭54.5.21
	6	松尾寺本堂	1棟	山田町	(宗)松尾寺	建武4	明35.7.31
	7	矢田坐久志玉比古神社 (本殿、末社八幡神社社殿)	2棟	矢田町	(宗)矢田坐久志玉比古神社	室町前期	明41.4.23
	8	五輪塔覆堂	1棟	長安寺町	大和郡山市	天正12~13	昭19.9.5
	9	額安寺五輪塔	8基	額田部寺町	(宗)額安寺	永仁5	昭36.3.23
彫刻	10	木造地藏菩薩立像	1軀	矢田町	(宗)金剛山寺	平安	明39.9.6
	11	木造阿弥陀如来坐像	1軀	矢田町	(宗)金剛山寺	平安	明39.9.6
	12	木造十一面観音立像	1軀	矢田町	(宗)金剛山寺	平安	明39.9.6
	13	木造地藏菩薩立像	1軀	矢田町	(宗)金剛山寺	平安	大13.4.15
	14	木造閻魔王倚藏	1軀	矢田町	(宗)金剛山寺	鎌倉	昭15.10.14
	15	木造司録坐像	1軀	矢田町	(宗)金剛山寺	鎌倉	昭15.10.14
	16	木造阿弥陀如来及両脇侍立像	3軀	柏木町	(宗)光明寺	室町	大11.4.13
	17	木造伝善導大師坐像	1軀	柏木町	(宗)光明寺	室町	大11.4.13
	18	木造虚空蔵菩薩坐像	1軀	矢田町	(宗)北僧坊	平安	明39.9.6
	19	木造阿弥陀如来坐像	1軀	洞泉寺町	(宗)浄慶寺	平安	明31.4.23
	20	木造薬師如来坐像	1軀	矢田町	(宗)東明寺	平安	明39.9.6
	21	木造地藏菩薩坐像	1軀	矢田町	(宗)東明寺	平安	明39.9.6
	22	木造毘沙門天立像	1軀	矢田町	(宗)東明寺	平安	明39.9.6
	23	木造吉祥天立像	1軀	矢田町	(宗)東明寺	平安	明39.9.6
	24	木造阿弥陀如来及両脇侍立像	3軀	洞泉寺町	(宗)洞泉寺	鎌倉	大11.4.13
	25	木造毘沙門天立像	1軀	矢田町	(宗)南僧坊	平安	明39.9.6
	26	木造大黒天立像(大黒堂安置)	1軀	山田町	(宗)松尾寺	鎌倉	明42.9.21
	27	木造十一面観音立像	1軀	山田町	(宗)松尾寺	平安	明42.9.21
	28	木造十一面観音立像	1軀	奈良国立博物館寄託	(宗)地福寺	平安	昭54.6.6
	29	木造二天王立像(頭部欠)	2軀	矢田町	(宗)金剛山寺	奈良	令2.9.30
絵画	30	絹本着色矢田地蔵縁起	2幅	矢田町	(宗)金剛山寺	鎌倉	昭38.2.14
	31	絹本着色釈迦八大菩薩像	1幅	奈良国立博物館寄託	(宗)松尾寺	高麗	明42.4.5
	32	絹本着色阿弥陀聖衆來迎図	1幅	奈良国立博物館寄託	(宗)松尾寺	鎌倉	昭49.6.8
工芸	33	紫檀塗螺鈿厨子(千体仏厨子)	1基	丹後庄町	(宗)千體寺	鎌倉	明43.4.20
民俗文化財	34	吉野林業と林産加工用具	1,908点	矢田町	奈良県	近世~近代	平19.2.6
史跡	35	額田部竊跡		額田部北町	大和郡山市ほか	鎌倉	昭4.4.2
	36	郡山城跡		城内町ほか	大和郡山市ほか	安土桃山	令4.11.10
名勝及び史跡	37	慈光院庭園		小泉町	(宗)慈光院	江戸	昭9.12.28

<県指定>

区分	No.	名称	員数	所在地	所有者	時代区分	指定年月日
建造物	1	薬園八幡神社本殿	1棟	材木町	(宗)薬園八幡神社	安土桃山	昭28.3.23
	2	杵築神社本殿	1棟	椎木町	(宗)杵築神社(椎木町)	室町中期	昭42.11.25
	3	杵築神社宝蔵 (旧出雲寺如法経道場)	1棟	椎木町	(宗)杵築神社(椎木町)	天文3	昭42.11.25
	4	八幡神社本殿	1棟	豊浦町	(宗)八幡神社(豊浦町)	天正	昭42.11.25
	5	旧木村家住宅 (旧所在吉野郡十津川村大字旭)	2棟	矢田町 (大和民俗公園構内)	奈良県	文政4	昭50.3.31

	6	旧吉川家住宅 (旧所在 橿原市中町)	1棟	矢田町 (大和民俗公園構内)	奈良県	江戸 中期	昭52.5.22
	7	旧秋原家住宅 (旧所在 桜井市大字下)	1棟	矢田町 (大和民俗公園構内)	奈良県	元禄頃	昭45.3.24
	8	旧鹿沼家住宅 (旧所在 大和高田市永和町)	1棟	矢田町 (大和民俗公園構内)	奈良県	文化10	昭55.3.28
	9	金剛山寺本堂	1棟	矢田町	金剛山寺	室町前期	昭62.3.10
	10	旧奈良県立図書館 (大和郡山市民会館)	1棟	城内町	大和郡山市	明治41	平9.3.21
	11	旧松井家住宅 (旧所在 室生村上等間)	1棟	矢田町 (大和民俗公園構内)	奈良県	江戸後期	平16.3.31
	12	旧八重川家住宅 (旧所在 都祁村針)	1棟	矢田町 (大和民俗公園構内)	奈良県	江戸末期	平16.3.31
	13	旧前坊家住宅 (旧所在 吉野町吉野山)	1棟	矢田町 (大和民俗公園構内)	奈良県	江戸末期	平16.3.31
	14	薬園寺本堂	1棟	材木町	(宗)薬園寺	江戸前期	平21.3.31
	15	額安寺宝篋印塔	1基	額田部寺町	(宗)額安寺	文応元年	平24.3.30
彫刻	16	木造千手観音立像	1躯	山田町	(宗)松尾寺	鎌倉	昭33.3.20
	17	木造千手観音立像	1躯	満願寺町	(宗)西岳院	平安	昭55.3.28
	18	木造地藏菩薩立像	1躯	横田町	(宗)西興寺	鎌倉	平1.3.10
	19	木造四天王立像	4躯	椎木町	(宗)光堂寺	平安	平3.3.8
	20	木造文殊菩薩騎獅像	1躯	西町	西町自治会	鎌倉	平4.3.6
	21	木造薬師如来坐像	1躯	椎木町	(宗)光堂寺	平安	令2.3.6
	22	木造釈迦如来坐像	1躯	矢田町	(宗)金剛山寺	平安	令5.3.24
工芸	23	金銅金具装山伏笈	1背	山田町	(宗)松尾寺	室町	昭34.2.5
	24	梵鐘	1口	矢田町	(宗)金剛山寺	寛元4	昭52.3.22
	25	黒漆六角厨子	1基	額田部寺町	(宗)額安寺	鎌倉	平1.3.10
	26	黒漆舍利厨子	1基	矢田町	(宗)金剛山寺	鎌倉～南北朝	平31.2.22
歴史資料	27	郡山町箱木関係資料	34点	新中町	(宗)春岳院	桃山～江戸	平19.3.30
	28	柳澤家当主年禄及び日記類	1,800冊	城内町	(公財)郡山城史跡 ・柳沢文庫保存会	江戸	平26.3.28
有形民俗	29	翁舞関係資料(長命茂兵衛旧蔵)	5点	今国府町・小林町	今国府・小林杵築神社 宮座	室町 (及び江戸)	平7.3.22
	30	奈良の瓦作り用具	一式	矢田町	奈良県	明治～昭和	平9.3.21
	31	奈良県の牛耕用具	544点	矢田町	奈良県	江戸末期～ 昭和初期	平19.3.30
	32	大和万歳資料	48点	矢田町	奈良県	江戸～近代	平25.3.29
史跡	33	小泉大塚古墳		小泉町	奈良県	古墳前期	平11.8.19
	34	西田中瓦窯		西田中町	大和郡山市	飛鳥時代	平29.2.14
	35	下ツ道		八条町・ 天理市南六条町	国土交通省ほか	飛鳥～平安	令6.3.22

<市指定>

区分	No.	名称	員数	所在地	所有者	時代区分	指定年月日	
建造物	1	永慶寺山門	1棟	永慶寺町	(宗)永慶寺	江戸中期	昭50.11.3	
	2	十三重石塔	1基	矢田町通	(宗)実相寺	鎌倉	平4.1.14	
	3	額安寺本堂	1棟	額田部寺町	(宗)額安寺	江戸	平15.3.26	
彫刻	4	柳澤吉保、同夫人坐像	2躯	永慶寺町	(宗)永慶寺	江戸	昭50.11.3	
	5	女神像	1躯	小泉町	(宗)小泉神社	平安	昭59.4.5	
	6	十一面観音立像 附：法華経 8巻	1躯	山田町	(宗)松尾寺	室町	昭59.4.5	
	7	役行者像 附：前鬼像 1躯、後鬼像 1躯	1躯	山田町	(宗)松尾寺	室町	昭59.4.5	
	8	筒井順慶坐像	1躯	筒井町(光専寺)	筒井順慶木像保存会	江戸	昭59.4.5	
	9	木造阿弥陀如来坐像	1躯	車町	(宗)西方寺	平安	平4.1.14	
	10	木造十一面観音立像	1躯	観音寺町	観音寺町自治会	平安	平4.1.14	
	11	木造釈迦如来坐像	1躯	丹後庄町	松本寺	室町	令1.9.17	
	12	木造阿弥陀如来坐像	1躯	丹後庄町	松本寺	室町	令1.9.17	
	13	木造吉祥天立像	1躯	矢田町	(宗)金剛山寺	室町	令4.3.31	
	14	木造地藏菩薩立像	1躯	高田町(釋尊寺)	高田口一区自治会 高田口二区自治会	平安	令5.9.1	
	絵画	15	豊臣秀長画像	1軸	新中町	(宗)春岳院	江戸	昭50.11.3
		16	柳澤吉保画像	1軸	城内町	個人	江戸	昭50.11.3
		17	六義園絵巻	3巻	城内町	(公財)郡山城史跡 ・柳沢文庫保存会	江戸	昭50.11.3
18		郡山城の図(享保九年)	1軸	城内町	(公財)郡山城史跡 ・柳沢文庫保存会	江戸	昭50.11.3	
19		郡山城の図(安政年間)	1軸	城内町	(公財)郡山城史跡 ・柳沢文庫保存会	江戸	昭50.11.3	
20		町割図	29葉	城内町	(公財)郡山城史跡 ・柳沢文庫保存会	江戸	昭59.4.5	
21		御家中屋敷小路割名前図	1軸	城内町	(公財)郡山城史跡 ・柳沢文庫保存会	江戸	昭59.4.5	
22		郡山城古図	1軸	外川町	(宗)発志院	江戸	昭59.4.5	
23		絹本着色春日赤童子画像	1幅	奈良国立博物館寄託	(宗)植槻八幡神社	室町	平4.1.14	
24		植槻道場縁起絵巻	1巻	奈良国立博物館寄託	(宗)植槻八幡神社	江戸	平4.1.14	
25		春日御祭之次第(上下巻)	2巻	城内町	(公財)郡山城史跡 ・柳沢文庫保存会	江戸	平4.1.14	
26		唐獅子図襖絵	8面	材木町	(宗)薬園八幡神社	江戸	平13.10.3	

工芸	27	扁額(保山筆)	1面	永慶寺町	(宗)永慶寺	江戸	昭50.11.3
	28	扁額(香山筆)	1面	矢田町通	(宗)実相寺	江戸	昭53.5.3
	29	梵鐘	1口	今井町	光慶寺	江戸	昭59.4.5
書跡	30	一切経	二千余巻	車町	(宗)西方寺	平安後期~江戸	昭50.11.3
	31	荻生徂徠書跡	3点	城内町	個人	江戸	昭50.11.3
	32	六義園記	1巻	城内町	(公財)郡山城史跡 ・柳沢文庫保存会	江戸	昭50.11.3
	33	吉保歌集	2冊	城内町	(公財)郡山城史跡 ・柳沢文庫保存会	江戸	昭50.11.3
	34	古今集并歌書品々御傳受御書付	一式	城内町	(公財)郡山城史跡 ・柳沢文庫保存会	江戸	昭50.11.3
	35	積玉和歌集 7冊 同員外 8冊 同追加 3冊 潤玉和歌集 1	20冊	城内町	(公財)郡山城史跡 ・柳沢文庫保存会	江戸	昭50.11.3
	36	大般若波羅密多經 附:経唐櫃 6箱	596巻	番条町	(宗)阿弥陀院	鎌倉中期	昭53.5.3
	37	綱吉筆「過則勿憚改」	1幅	城内町	(公財)郡山城史跡 ・柳沢文庫保存会	江戸	平4.1.14
典籍	38	風流使者記	21巻	城内町	(公財)郡山城史跡 ・柳沢文庫保存会	江戸	昭50.11.3
	39	護法常応録 附:故紙録 2冊	33冊	永慶寺町	(宗)永慶寺	江戸	昭50.11.3
歴史資料	40	旗本三好家銀札判木 一、匆判判木 2組 入子 2点 附. 木箱 1箱 一、分判判木 2組 入子 2点 附. 木箱 1箱 一、印章 3箇		丹後庄町	丹後庄協議会	江戸	令6.3.29
考古資料	41	西田中・内山瓦窯出土品	一括	北郡山町	大和郡山市	飛鳥	令5.3.31
史跡	42	若槻環濠及び集落	-	若槻町	若槻町区	室町	昭50.11.3
	43	稗田環濠及び集落	-	稗田町	稗田町区	室町	昭50.11.3
	44	大納言塚	-	箕山町	大和郡山市	安土桃山	昭50.11.3
	45	割塚古墳	1基	千日町	大和郡山市	古墳	昭53.5.3
	46	歌ヶ崎廟	-	外川町	(宗)発志院	江戸	昭53.5.3
石造物	47	十三重石塔	1基	山田町	(宗)松尾寺	江戸	昭59.4.5
	48	五尊石仏	1基	城内町	(公財)郡山城史跡 ・柳沢文庫保存会	奈良	昭59.4.5
	49	柳里恭墓碑	1基	外川町	(宗)発志院	江戸	昭59.4.5
	50	十三仏	1基	矢田町	(宗)大門坊	安土桃山	平13.10.3

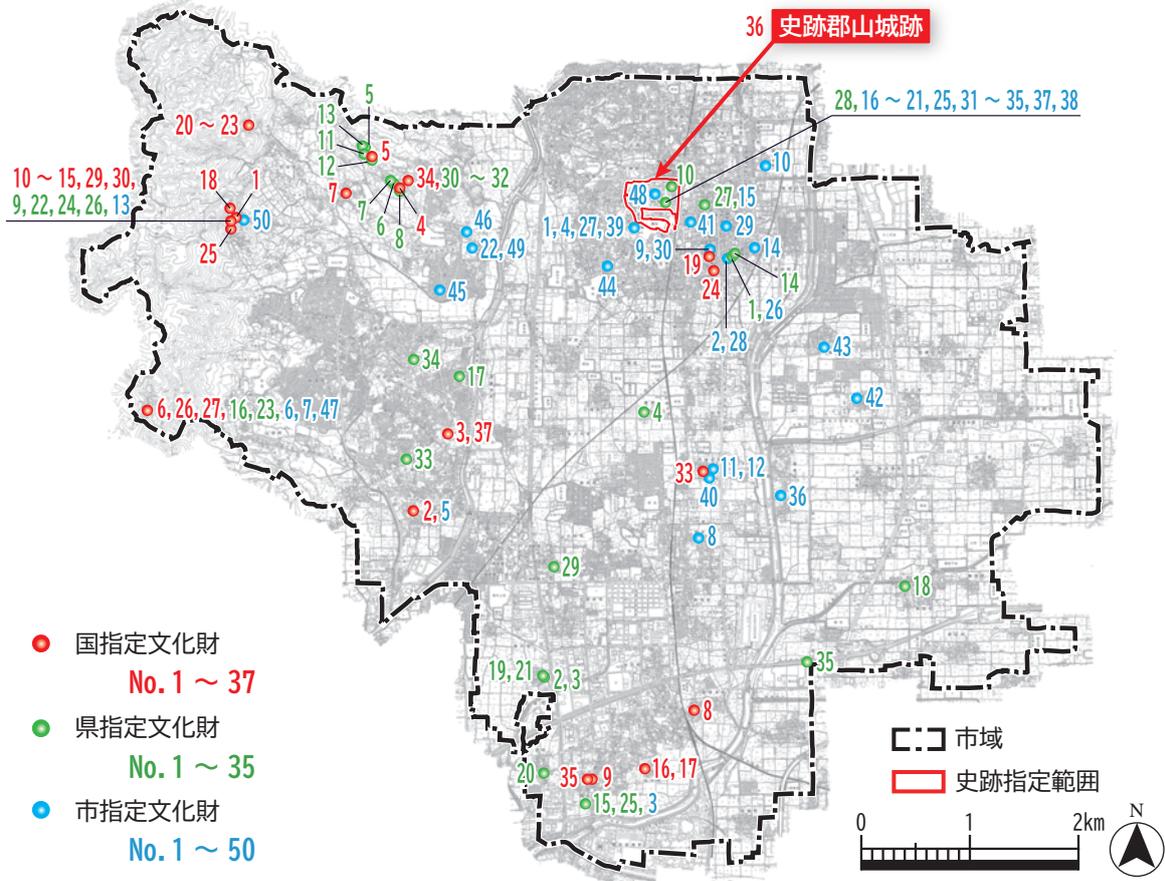


図 2-11 大和郡山市の指定文化財

(S=1/70,000)

②景観資源と観光・レクリエーション

大和郡山市内には、多様な景観資源がある。郡山城跡を中心として周辺の旧城下町に所在する町家や寺社、町割りも、城下町としての郡山の歴史的景観を形成している。市街地の外縁に広がる田園風景には金魚養殖池が多く分布し、特徴的な田園景観を形成している。稗田や若槻に代表される環濠集落は市内各所に点在し、本市独特の集落景観を形成している。

文化財は、貴重な観光資源でもある。郡山城跡は本市を代表する観光資源であり、観光客も多い。旧城下町や城跡に関連する歴史資源を巡る道中もまた、多くの来訪者がある観光資源である。矢田丘陵の寺院も市を代表する観光資源であり、矢田寺の紫陽花や松尾寺のバラなど、四季の移ろいが楽しめる境内地は、人気の観光スポットである。慈光院は石州流茶道の聖地であり、豊かな景観と合わせて来訪者が多い人気スポットである。

本市の特徴的な産業である金魚養殖は、観光資源にもなっている。夏は金魚すくいで盛り上がり、県内外から多くの参加者が訪れる。市内各所の金魚マンホールは人気を博し、旧城下町の柳町商店街は金魚ストリートとして賑わっている。民営の郡山金魚資料館も来訪者が多い。

レクリエーション活動の施設には、総合公園や運動公園を始め、市内各所にグラウンドやスポーツ施設がある。九条公園や、矢田総合公園、まほろば健康パークは、市外からの利用者も多い。矢田丘陵には、自然を活かし、ハイキングコースや、矢田山遊びの森、里山の駅「風とんぼ」が整備されている。文化施設は、DMG MORI やまと郡山城ホールが整備され、図書館やホール、武道場を併設している。市内各所の公民館は、地域の文化交流の場である。

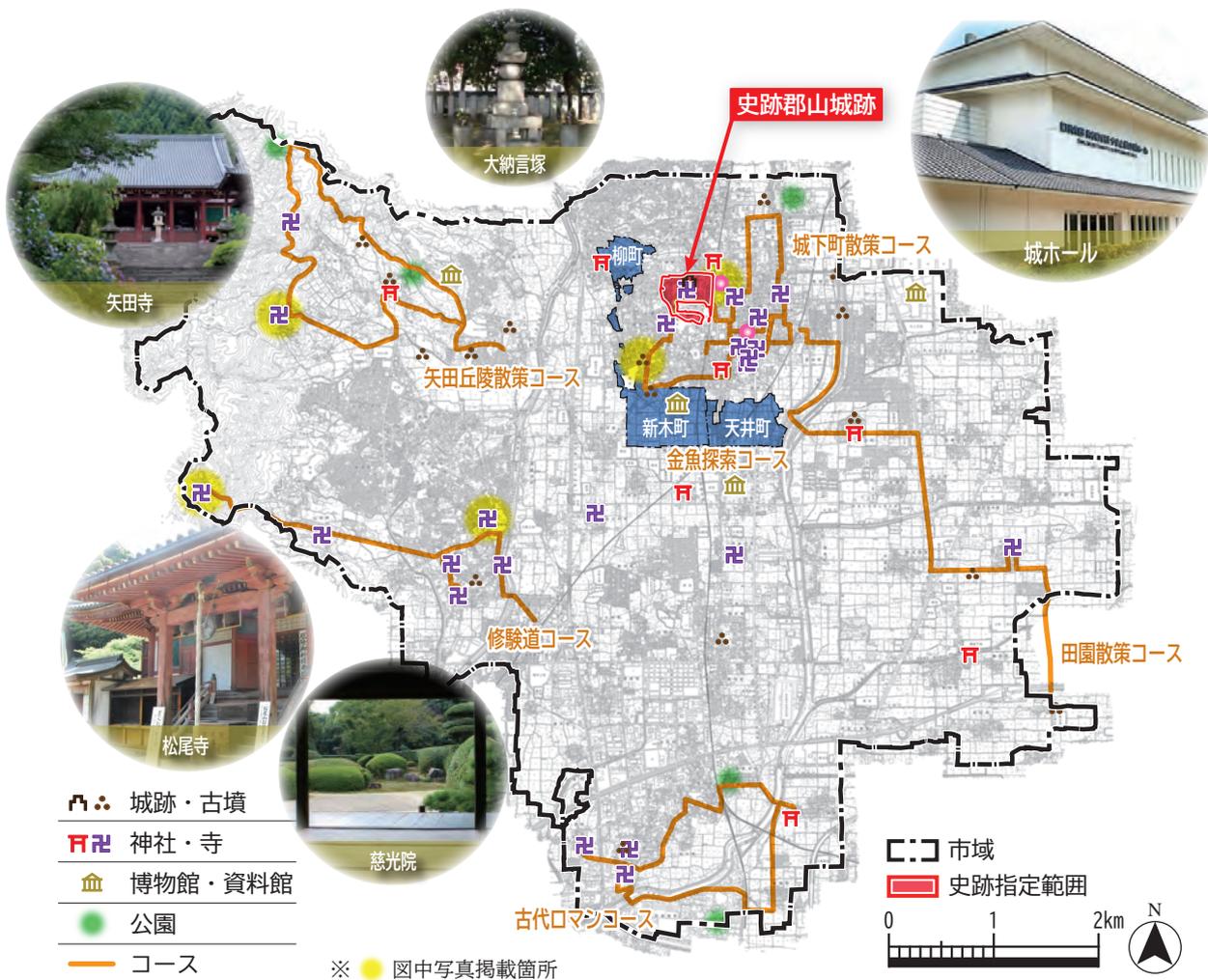


図 2-12 大和郡山市の観光・レクリエーション

(S=1/70,000)

※やまこおりやまデジタルナビ
 一般社団法人大和郡山市観光協会公式ウェブサイトを
 DMG MORI やまと郡山城ホール HP をもとに作成

(5) 公園・緑地

大和郡山市の緑地は平成30年度末時点で3,199.8haあり、市域面積の約75%を占めている。そのうち1割強に当たる341.9haが公園等の施設緑地である。

公園緑地には都市公園、その他の公園、児童遊園がある。これらの面積の合計は73.5haで、市域面積の1.7%に相当する。市民一人当たりの面積は8.51㎡である。都市公園は157箇所が整備されている。このうち、大和民俗公園とまほろば健康パークは奈良県が管理し、その他を市が管理している。市が管理する公園にも矢田総合公園や九条公園のような規模が大きい公園があり、市民一人当たりの都市公園面積は7.34㎡となる。県内の他市町村と比べても大規模な公園が多い点が特徴的である。児童遊園等は56箇所6.7haがあり、宅地や田畑、寺社境内地といった多様な形態で地域の緑地として重要な機能を担っている。

本計画地が位置する市の北部は、緑地面積の比率が他の地区と比べて低い。主要な駅が立地する中心市街地で農林が少ないことに起因している。ただし、市街化区域内の緑地面積に限ってみると、24.4%が緑地として確保されている点も特徴的である。史跡指定範囲は、市内でも屈指の規模の都市公園区域であり、緑地が少ない北部地区において重要な役割を担っている。

市の今後の緑地政策においては、本計画対象地となる史跡や城下町の街並み、外堀緑地、さらには市西部の丘陵地や寺社など、市内の広域に点在する緑資源や歴史資源をつなぎ合わせた「緑のネットワーク」の形成が、大きな課題となっている。

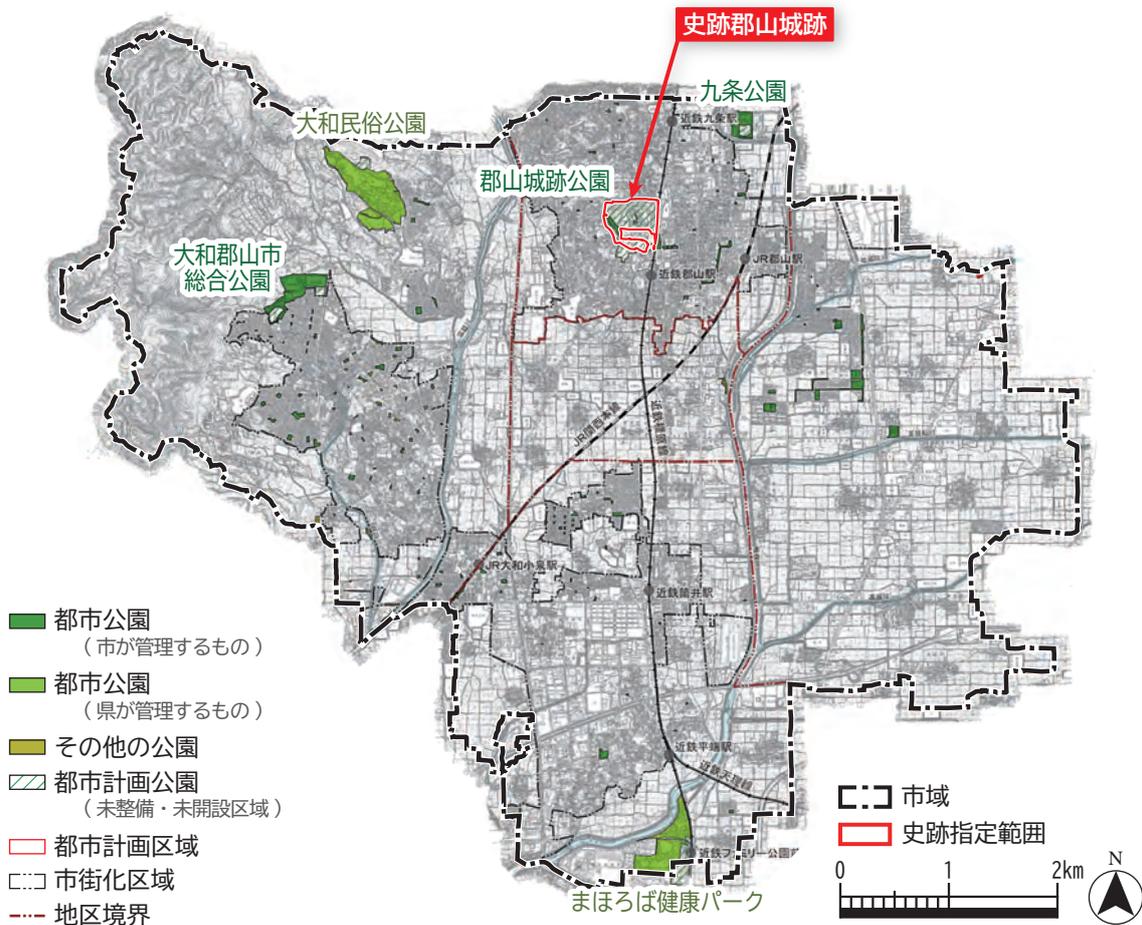


図 2-13 大和郡山市の公園 (S=1/70,000)
 ※都市公園などの分布(『緑の基本計画』(令和3年)より)をもとに作成